

日 時	2026 年 8 月 22 日（土） 18:00～19:20
場 所	宝立小中学校 体育館

参加者:68 名

【開会のあいさつ】

多田区長会長：

宝立町のまちづくりは、次の段階に入りつつあるのではないかと考えている。これまで三つの地区ごとに被災の特徴に応じたまちづくりの協議を進め、復興公営住宅の戸数や場所、自力再建される方の把握等、住まいの問題についてはおおむね見通しが立ってきた。

次の段階として、家が建った後の家どうし、住民どうしの結びつきをどう作っていくかを考えていく必要がある。宝立七夕キリコ祭りも、地区ごとのものではなく宝立町全体の祭りである。今年整備された観覧席についても、祭りのためだけではなく、町のイベントなどに使える町全体の財産として活用したい。

先日、新たに宝立町まちづくり協議会を立ち上げた。例えば、海から見たときに海岸沿いがきれいに見えるよう桜を植えるなど、これからの宝立をどうしていくか、みんなで考える時期に来ていると思う。橋の架け替えや解体など様々な課題もあるが、本日の説明と意見交換を通して、さらに復興が前進する有意義な会になればと思う。

泉谷市長：

発災からまもなく2年8か月となる。応急復旧から本復旧、そして復興へと進んできているが、皆さん一人ひとりの状況を見ると、まだまだ厳しいと思っている。今年度第1回目の意見交換会となる。様々なご要望、ご意見、ご質問をいただきたい。

復興公営住宅については、6月に入居申込みを受け付けた。宝立町柏原団地は発注済みで17戸、南黒丸団地は10から15戸程度、春日野団地は25戸、鵜飼団地は60戸、金峰寺団地は30から35戸程度を予定している。他に木造仮設住宅を転用する珠洲市賃貸住宅は、旧鵜島駅前15戸、見付公園90戸を予定している。地域の皆さんには優先枠で入居いただき、漏れることのないよう対応していきたい。

本日は珠洲土木事務所の方にもお越しいただいている。春日野地区の海岸堤防についても説明いただきたい。インフラの復旧は行政として迅速に進める一方、宝立町を今後どうしていくかについては、地域の皆さんの考えとすり合わせながら、共に進めていきたい。

8月1日には、昨年に続き宝立七夕キリコ祭りが行われた。地域の皆さんの『祭りから立ち上がる』という思いのもと、COMPLEXの基金を活用し、キリコの保管庫と観覧席の機能を兼ねた施設が完成したことを大変うれしく思っている。

鵜飼・春日野地区では震災で尊い命を亡くされた方も多い。鎮魂と復興への誓いを込めた復興祈念公園・施設を見付周辺に整備したい。単独の慰霊碑、モニュメント、アート作品を置くというより、エリア全体がそのような意味を持つ場所となるよう、アートの要素も取り入れながら構想を練りたい。

周辺の観光再生も必要である。のとじ荘の復旧工事は発注できたので、これから工事を進めていく。見付レストハウスについても復旧を進め、宝立小中学校の児童生徒の思いを取り入れながら、震災学習の要素も盛り込めればと思っている。

学校統合についても議論を進めている。珠洲市全体で小学校1校、中学校1校になると選択肢がなくなるため、宝立小中学校を残すことができればと考えている。宝立町の児童生徒が必ず宝立小中学校に通わなければならないのではなく、他地区の児童生徒も希望すれば通えるような柔軟な仕組みにしたい。大谷小中学校についても、児童生徒、保護者、地域の総意として存続を望まれていることから、宝立小中学校とともに特認校として地域の区切りなく通える学校として残せればと思っている。

鵜飼分団については金峰寺付近で整備を進める。ここから担当ごとに説明を行った後、皆様からご意見、ご質問をいただきたい。

【資料説明】

- ・地区別まちづくり計画について

【意見交換】

参加者：

珠洲市では集団移転事業はないと思うが、市役所に用地を担当する部署はあるのか。ある場合、担当職員は何人いるのか。建物とは別に、土地の買収は時間がかかると思うが、土木部門との連携を含めて体制を伺いたい。

もう一点、海岸堤防の整備について伺いたい。津波を防ぐための堤防であることは理解しているが、何も配慮しなければ一律のコンクリート構造物になってしまう。国定公園でもあるので、景観やデザインに配慮する担当者がいるのか伺いたい。

珠洲市：

環境建設課の中に用地担当が現在5名在籍している。

市長：

鵜飼漁港付近、鵜飼川から般若川にかけては、水産庁の権限代行による整備となる。将来、宝立七タキリコをもう一度海に出す際にも利用できるよう、波打ち際へ下りやすいスロープ状の構造などもイメージとして示されている。それ以外は石川県の担当となる。

石川県：

漁港海岸のうち市管理の部分は、水産庁の権限代行で整備を進めている。県土木が担当するのは、般若川周辺など県管理の部分であり、復旧工事は既に契約済みで、一部は現地着工している。

堤防は津波と高潮に耐える安全性を確保することが最優先となる。河口部についても、海側からの影響を踏まえ、必要な高さのコンクリート壁などを水産庁と協議しながら設計している。宗玄地区から見付方面にかけての海岸については、国土交通省の権限代行で復旧工事を進める。

景観面については、安全性を確保した上で、海へ下りるためのスロープなどを設けることは水産庁側でも配慮しながら設計すると聞いている。

参加者：

安全性が第一であることは分かるが、国定公園でもあるので、単調なものではなく、できるだけ景観にも配慮したものにしてほしい。

参加者：

復興公営住宅の設備について質問する。市の設計標準を見ると、エアコン、居室内の照明器具、ガスコンロまたはIHコンロ、暖房便座、温水洗浄便座などが別途工事、入居者負担となっているように見える。現在の仮設住宅にはこれらが備え付けられているのに、なぜ復興公営住宅では入居者が負担しなければならないのか。国や県の規則、法律に基づくものなのか伺いたい。

市長：

ようやく復興公営住宅が完成し、落ち着いた住まいに移れるという時に、鍵を開けてスイッチを押しても照明がつかないというのはいかなるものかと思っている。特に近年の夏の暑さを考えると、エアコンは贅沢品ではなく、命に関わる設備と認識している。

公営住宅法の考え方では、こうしたものは基本的に入居者負担となる。ただ、復興公営住宅についてはできる限り一定の設備を整えたいと思っている。国の4分の3補助の対象にはならず、市の財政負担となるが、可能な限り対応したい。

珠洲市：

カーテンやIH機器等については、公営住宅の制度上、標準設備として認められていない。一方、照明はトイレ、浴室、玄関には設置する。居間や寝室の照明は標準では付かないが、市長の説明のとおり庁内で協議している。

温水洗浄便座については、今回整備する復興公営住宅では標準で設置する。ホームページの設計標準表記は速やかに訂正する。

参加者：

便座について、珠洲市の設計標準では別途工事と読めるが、能登町や穴水町では暖房便座・温水洗浄便座が標準になっている。珠洲市も全戸設置されるという理解でよいのか。

珠洲市：

今回整備する復興公営住宅は、全てのトイレに温水洗浄・暖房便座を設置する。ホームページの設計標準の表記は速やかに修正する。

参加者：

エアコンについて追加で伺いたい。みなし仮設住宅に住み、自分で購入して設置したエアコンを復興公営住宅へ持っていきたい方もいる。来年から省エネ基準が変わると聞くが、現在使っているエアコンを移設することはできるのか。

珠洲市：

みなし仮設住宅でご自身が購入・設置したエアコンは、新しい住宅へ移設して使用して差し支えない。新たに購入する場合は、その時点で販売されている新しい省エネ基準の機器を選ぶことになる。

市長：

みなし仮設でご自身が設置したものは移設できる。一方、応急仮設住宅に備え付けられているエアコンは外して持っていくことはできない。国全体で考えるともったいない面もあるが、制度上そのような扱いになる。

参加者：

旧国道から海岸線へ向かう道路について、今後の道路計画はどうなっているのか。拡幅や線形改良などの予定があるのか伺いたい。

珠洲市：

これまでの意見交換会で、道路を広くしたい、拡幅してほしいという要望をいただいている。再建意向のある場所を中心に整備したいと考えていたが、再建されないエリアもある。現段階では、復興公営住宅が整備される場所の周辺について道路を改善していくことを考えている。

参加者：

それ以外の道路は復旧しないのではなく、後回しになるということか。

市長：

道路、水道、側溝等を地区ごとにまとめて一括発注し、9月上旬に入札、年明け頃から本格着工できるよう進めている。国道の権限代行部分や県道を含め、2029年春頃を一つの目標として復旧を進める。

宝立町は宝立町全体で大きな一つの発注にまとめる。工事が始まると通行止めなども生じるため、地域ごとに説明会を行い、生活への支障をできるだけ抑えながら進めたい。

副市長：

般若川の鵜飼側については、海側の防潮・復旧工事との調整が必要になる。周辺では自力再建をされる方もおり、道路がいつ直るのか心配されているので、担当課と調整し、具体的なスケジュールを地域へ伝えるようにしてほしい。

多田区長会長：

見付公園ではグラウンドゴルフ場はある程度整備されているが、子どもたちがよく遊びに行く。アスレチックなどの遊具を、できれば優先して早く直してもらえないか。

珠洲市：

見付公園も一括発注する復旧工事の対象に含まれる。大規模なアップグレードではなく、基本的には原形復旧を考えている。遊具を優先して直してほしいという要望については、受注業者と工程を調整し、可能な限り対応したい。

市長：

見付公園の噴水は老朽化しており、長年、水が出ているところをご覧になっていない方も多いと思う。噴水部分を埋めて芝生広場を広げ、グラウンドゴルフなどにも使いやすい空間にする方向で進めたい。

寺井市議会議員：

復興祈念公園について、議会で市長から、見附島周辺に鎮魂と復興への誓いを込め、アートを含む公園を整備したい、地域の皆さんと協議しながら進めたいとの答弁をいただいた。まだ地域の皆さんに十分伝わっていないと思うので、市長がどのような場所、どのような整備イメージを考えているのか説明してほしい。

市長：

配布資料に大まかな位置を示しているが、用地には地権者がおられるため、現段階で具体的な絵を描ける状況ではない。慰霊碑や単体のモニュメントを置くというより、その場所全体がアートとして、鎮魂と復興への思いを表すような施設にしたい。

例えば、豊島美術館のように、建物そのもの、空間そのものが作品となり、多くの人が訪れるようなあり方を思い描いている。

鎮魂と復興だけでなく、観光にもつながるものを両立させたい。宝立七夕キリコ祭りの観覧席・保管庫が地域イベントの中心となり、そこから海岸線を望み、その延長上に復興祈念公園がある。そうした一体的な場所が、宝立町の復興まちづくりのシンボル、ランドマークとなればと思う。

大きく形が変わった見附島は、元の形に戻すことは現実的に難しいが、天然の震災遺構ともいえる。南三陸町の震災遺構・防災学習の拠点なども参考にしながら、見附島そのものを含めて震災学習の拠点としていきたい。見付レストハウスでも、能登半島地震の被害や何が起きたのかを学べる展示を取り入れたい。

宝立小中学校の児童生徒が考えている『宝立テラス』のような構想やアイデアも素晴らしい。地域の皆さんが宝立の復興を考える議論とすり合わせながら進めていきたい。

寺井市議会議員：

鎮魂と復興への思いに加え、アートによって観光客を呼び込むことも含めた二本立ての考え方という理解でよいか。

市長：

同じイメージである。まだ構想段階だが、地域の鎮魂、復興への思い、観光、震災学習などをトータルに取り入れられる形を考えていきたい。

多田区長会長：

新しいまちづくり協議会を立ち上げ、共同代表として関わっている。宝立小中学校の子どもたちが考えた案をどこに、どのように取り入れるかは、これから協議会でも議論していきたい。市長が考える復興祈念公園の構想とも合わせながら進められればと思う。

見附茶屋・見付レストハウスについて、これまではのとじ荘と一体で指定管理されていたと思うが、今後どのように運営するのか。ポケモンの取り組みで見附島周辺を訪れる人が非常に増えているので、この施設を活用しない手はないと思う。指定管理のあり方も含めて考えを伺いたい。

市長：

見付レストハウスは、まず復旧に向けて入札準備を進めている。施設を復旧させた上で、震災学習など様々な要素を入れられるかを考えたい。

これまでは、のとじ荘と見付レストハウスを一体で指定管理していただいていたが、今後も同じ形態にするのか、分けるのかについては、復旧を進めながら協議したい。

ポケモンの人気は非常に高く、見附島周辺のポケモン関連スポットやスタンプラリーなど、多くの方が訪れている。これを地域経済にどう取り込むかは重要であり、地域の皆さんと行政が連携して考えていきたい。

参加者：

見付公園について二点お願いしたい。アスレチックなど新しい遊具はあまり考えていないとのことだが、若い方が子どもを連れて来て、ここへ来れば一定時間過ごせるという場所を確保してほしい。

もう一つ、現在も小さなドッグランがあり、犬を連れて来る方がいる。管理上の負担もあると思うが、今後の公園整備では、ペット・動物を連れて利用する人の視点も取り入れてほしい。

市長：

見付公園については、噴水部分の形状を変えることも含めて整備を進めるので、いただいた意見も踏まえて考えたい。

参加者：

ポケモンの効果で見付が賑わっている一方、えんむすび一ちの鐘の周辺が傷んでおり、立入禁止のロープを張っても毎日のように外されている。事故が起きる前に修繕などの対応をしてほしい。

副市長：

本来は設置者の対応となるが、現状は危険であり、海岸・漁港の範囲でもあると思われる。行政として何ができるか検討する。

市長：

あの状態を放置するわけにはいかないので、できるだけ早急に対応を検討する。

参加者：

観光バスが見附島によく来るが、以前あったベンチがなく、観光客が20分から30分過ごす間に座る場所がない。高齢の方も多いので、できるだけ早くベンチを設置してほしい。

市長：

できるだけ対応できるよう考える。

参加者：

宝立小中学校の子どもたちの発表も聞いた。発表した内容を形にするだけでなく、人が集まる仕掛けも必要だと思う。資料館のような場所を整備し、キリコや曳山など各家庭に残る歴史資料を展示して、観光客や子どもたちが宝立町や珠洲市の歴史を学べるようにしてはどうか。学習室などもあれば、市のPRにもつながると思う。

もう一点、震災を機に珠洲を離れた方へ『広報すず』を送ることはできるのか。郵送に費用がかかるのであれば、年会費のような形でもよい。珠洲を離れた方にも珠洲のことを忘れず、つながりを持ってもらえるよう、希望者への配送を案内してほしい。

市長：

様々な事情で珠洲を離れざるを得なかった方とのつながりを保つことは重要だと思っている。震災前から、希望者には年間1,000円程度で『広報すず』を郵送している。また、珠洲市公式LINEでも広報や市の情報を見ることができる。住民基本台帳人口は1万人を少し下回っているが、公式LINEの登録者は1万人を超えており、多くの方に情報を届ける手段となっている。

資料館については、以前から必要だという意見があり、他自治体の資料館も見てきた。一方で、せっかく整備しても来館者が少ない施設も多い。珠洲では、音と映像による歴史民俗博物館として『珠洲シアターミュージアム』を整備しており、キリコなどの文化を学べるようにしている。

見附島周辺で大規模な資料館を新たに整備することは難しいかもしれないが、訪れた方が能登半島地震で何が起きたのか、自分の身をどう守るのかを学べる震災学習の取組みは、展示やソフト面も含めて進めていきたい。

参加者：

見附ドーム（旧パチンコ店）方面へ向かう道路上の橋が通れないままになっている。見附ドームの仮設住宅に住む方も多く、冬になれば積雪や除雪の問題もある。生活道路として利用しやすくなるよう、橋をできるだけ早く復旧してほしい。

市長：

ご指摘の橋は自分も早く復旧したいと思っている。通れないことで皆様に大変な不便をかけている。これから入札を行う段階であり、順調に落札されれば、できるだけ早く復旧できるよう進めたい。

市長：

国道 249 号の朝日橋について、架け替えと仮設迂回路の状況を県から説明してほしい。

石川県：

国道 249 号の朝日橋は現在通行できているが、橋そのものは架け替える予定である。架け替え工事中も国道を通行止めにはできないため、橋の横に土を盛って二車線の迂回路を整備している。迂回路は 12 月頃を目途に完成させたいが、現状は若干遅れ気味である。

迂回路完成後、現在の橋を撤去し、同じ位置に新しい橋を架ける。基礎から造り直す。大きな橋であるため、本橋の架け替え工事には 3 年程度を見込んでいる。

迂回路は基本的に二車線の対面通行であり、常時の片側交互通行にはしない。一時的に工事のため片側交互通行となる可能性はある。

市長：

交通量の多い珠洲の入口・出口となる場所なので、迂回による渋滞をできるだけ生じさせないように工夫してほしい。また、見附島方面へ向かう道路との交差点についても、交通事故が起きないように安全対策をお願いしたい。

石川県：

迂回路の安全対策も含めて整備を進める。

参加者：

朝日橋より下流側にある別の橋は、車両通行止めのままで歩行者だけが通れる状態だが、いつ頃車が通れるようになるのか。

珠洲市：

金峰寺橋のことであると思われる。現在、歩行者は通れるが、車両は通行禁止としている。水道関係の復旧が必要で、車両荷重に耐えられるか安全性が確認できないためである。

復旧時期については現時点で即答できない。一括発注の工事の中で対応するが、車両が通れる状態ではないため、通行は控えていただきたい。当初は全面通行止めとしていたが、宝立小中学校の通学路として歩行者の通行が必要なことから、歩行者のみ通行できるようにしている。

参加者：

釣具店のある交差点の感知式信号機について意見がある。ポケモンの影響で県外から来る車が増えている。県外の方は停止位置が分からず、センサーの手前で止まってしまう信号がいつまでも変わらないことがある。車から降りて押しボタンを押す人もいる。通常の信号にするなど改善できないか。

市長：

より高性能なセンサーにするのが難しいのであれば、感知式・押しボタン式ではなく通常の信号に変更する方法になるのかもしれない。現在は橋の復旧などで交通の流れも変わっているので、警察に状況を確認したい。

もともと横方向の交通が主で縦方向が少ないため感知式にしていたのだと思う。現在、縦方向の交通量が増えているのであれば、通常の信号に変えた方がよい可能性もある。

市長：

今年度中にもう一度、このような意見交換会を開きたいと思っている。年内には復興公営住宅の入居予定団地を確定させるので、その報告も含め、年明け頃には再度開催できればと考えている。

その間も宝立町の皆さんで様々なことを話し合っていたきたい。各区長さん、多田区長会長、寺井議員などを通じていただいてもよいし、市役所へ直接要望いただいても構わない。これからもキャッチボールを続けながら、宝立町の「新たなまちのかたち」を皆さんと共に考え、できるだけ早く具体的に進めていきたい。宝立町の再生と復興、そして珠洲全体のより魅力ある最先端の復興に向けて、皆さんと共に取り組み、成し遂げていきたい。

以上